

地域教育
情報紙(25年度)
第4号

風と流

平成25年8月29日発行
〈担当〉富士・東部教育事務所
地域教育支援スタッフ
秋山俊一・高野 修
小林統也・杉田 眞

富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、地域教育の「横の連携」と「縦の接続」を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。年に8回程度の発行を予定しています。

◆【夏休み親子教室】 帝京科学大学（沖永荘八学長）

「自然体験で、虫や生き物に触れ、楽しかった。」「カリグラフィーでカードを作って楽しかったです。」「楽器を作って、音が出てすごく不思議でした。」「たくさんの微生物が見られたり、おたまじゃくしの心臓を見たり、とかげが思ったより柔らかくて驚いたり、子どもたちのいろいろな顔が見られました。」「DNAをとれた。」「実験が楽しかった。」

帝京科学大学と北都留地域教育推進連絡協議会との共催による「夏休み親子教室」が、7月21日（日）、帝京科学大学上野原キャンパスで開催されました。今年は科学分野以外のコースも開設され、Aコース「生き物を知ろう」・Bコース「自然観察」（朝・昼・夜）・Cコース「カリグラフィーでカードを作ろう」（午前・午後）・Dコース「手作り楽器を作ろう」（午前・午後）・Eコース「科学に親しもう」の5コースに、幼児・小学生・中学生が延べ101名、保護者の方々が69名と、ほんとうにたくさんの参加がありました。

この「夏休み親子教室」の開催・運営においては、帝京科学大学の先生方、地域連携室・事務室の職員の皆さん、そして、多くの学生スタッフの皆さんのご協力があります。

当日は、多くのブースで学生スタッフが、丁寧に指導にあたり、子どもたちは、生き物とのふれ合いや自然観察、科学の不思議や手作り楽器の楽しさ等々、様々な体験や新たな発見をしていました。

「楽しかったあ〜。来年も、参加したい！！」と、多くの子どもたちが感想を寄せてくれました。



◆【親子カルチャー教室】 富士北稜高等学校

夏休みに入って間もない7月27日（土）、富士北稜高等学校（宮下 仁校長）において、富士北稜高等学校と南都留地域教育推進連絡協議会との共催による「親子カルチャー教室」が開催されました。今年度で11回目を数える今回は「パソコンを使ってオリジナルカレンダーをつくろう」、「電気をためてミニカーを走らせよう」、「鋳物で表札を作ろう」の3講座で、吉田、河口湖畔地区から25組の親子の参加があり、系列の特性を生かした各講座では、「ミニ先生」と呼ばれる高校生が熱心に指導にあっていました。

参加児童たちは、親子で「ものづくり」をする楽しさだけでなく、高校生とふれあいながらの「ものづくり」の面白さを体験していました。各講座の最後には、参加児童に修了証が渡され、修了証と出来上がった作品を手にとり子どもたちは満足した様子で家路につきました。



◆【ジュニアリーダー合同キャンプ】 ~漆黒の間の中を探検~

8月6日（火）・7日（水）、今年で4年目となる「南都留地区ジュニアリーダー合同キャンプ」が都留市宝の山ふれあいの里において行われました。南都留8市町村（富士吉田市、都留市、富士河口湖町、西桂町、鳴沢村、忍野村、山中湖村、道志村）の小中学生64名が初対面同士10グルー

ブに分かれて活動し、二日間自然を満喫しました。

泥田んぼやドラム缶風呂、山の60m滑り台と川遊びに加え、今年は子どもたちのコミュニケーション能力を高めようと「カブトムシトラップ」と「野外炊飯」が行われました。初日、各市町村から集まった子どもたちは、アイスブレイクをしながら心を打ち解け合い、「チーム旗」を作成し、カブトムシを捕まえるための「トラップ」を協力しながら作りました。いろいろ工夫したものを個々で持ち寄り、ある子はペットボトルを加工したり、ある子たちは、バナナとイースト菌・黒砂糖と焼酎を手でこねた物を日光に当て発酵させたりと、互いに意見を出し合いながら合計50カ所以上ものトラップを仕掛けていました。各グループの「カブトムシ捕獲作戦」計画にああでもない、こうでもない意見を出し合い、夜の「トラップチェック」計画を立てていました。漆黒の闇の森は、五感を十二分に冴え渡らせ、子どもたち同士の距離を縮めていました。ミヤマクワガタやコクワガタを発見した歓喜の声が闇の中に響き渡っていました。二日目の「野外炊飯」や「山の滑り台」では、スタート時にはみられなかった子ども同士の「つながり」が各場面で感じられました。そこには、集まってもゲーム機相手にぶつぶつ言いながら遊ぶ子どもではなく、汗だくで泥だらけになりながらみんなで転げ回るなつかしい子どもたちの姿がありました。



◆【親子ものづくり教室】 谷村工業高等学校

8月17日（土）、谷村工業高等学校（手塚芳一校長）において、谷村工業高等学校と南都留地域教育推進連絡協議会との共催による、第10回となる「親子ものづくり教室」が開催されました。今回の教室は「草木染めとフラワーアレンジメント」、「ホバークラフトの製作」、「プリンターの製作」、「電子制御ロボカーの製作」、「メタルプレート製作」の5つの講座に、都留、道志、西桂地区から24組の親子の参加がありました。



学科の特性を生かした各講座では、「ミニ先生」と呼ばれる高校生が、懇切丁寧に親子のものづくりの指導にあたっていました。各講座とも、参加児童の熱心さ、感性の斬新さに、指導する高校生たちも圧倒される場面がありました。講座の最後には、参加児童に修了証が渡され、作品を手にした子どもたちの表情は、達成感に満ちあふれたものでした。

◆【来春開校する都留興譲館高等学校の学校説明会】

都留・都の杜うぐいすホール、富士吉田市民会館、大月市民会館

谷村工業高校、桂高校の両校を統合して来春（平成26年4月）開校する山梨県立都留興譲館高校の学校説明会（山梨県教育委員会主催）が8月11（日）・17日（土）・18日（日）、都留・都の杜うぐいすホール、富士吉田市民会館、大月市民会館で開かれ、中学生・保護者・中学校教師等が多数参加しました。



8月11日の都留・都の杜うぐいすホールで行われた学校説明会では、最初に、谷村工業・桂高校の生徒がモデルとなり、男女の夏・冬の制服が公開されました。次いで、山梨県教育委員会新しい学校づくり推進室の担当者から、新校舎の概要・工期・建設地等が説明され、校舎の模型がお披露目されました。また、学校の概要説明では、英語理数科、普通科、工業科（機械工学科・電子工学科・制御工学科・環境工学科）の特色やカリキュラム、予定している入試の概要（前期募集）について紹介。都留文科大学や県立産業技術短期大学校との連携についての説明がありました。最後に、谷村工業・桂高校の生徒による両校の部活動の紹介がありました。